

# 小長谷順二 通信

創刊号

12月議会

## 16人定数で初議会開催

当初からの考えと思いに従い「ひらかれた議会」をめざし、小長谷順二通信の創刊号を発行致します。

市政、一般質問、問題点など、市民の皆様にも、出来るだけ判り易い形で報告をして参りたいと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。

### 第3回伊豆市議会臨時会

11月1日の臨時会で正副議長の選挙を行い投票の結果、議長・飯田正志、副議長・室野英子。その後の選任で、第一委員長・杉山誠、第二委員長・木村健一、議会運営委員長・森島吉文、議会報編集特別委員長・西島信也の各氏。

小長谷順二は第一委員会、議会運営委員会副委員長、田方地区消防組合議会に所属致します。議席番号は9番です。

小長谷順二後援会事務所

伊豆市土肥 450-7

TEL/FAX 0558(98)0400

Email photo-ko@vcs.wbs.ne.jp

第一委員会(8名)は、総務部、観光経済部、建設部、会計課、議会事務局、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会、固定資産評価審査委員会、農業者委員会、固定資産評価審査委員会の所管に属する事項と他に属さない事項を担当し、第二委員会(8名)は、市民環境部、健康福祉部、教育委員会の所管に属する事項を担当。

### 第4回伊豆市議会定例会

11月22日の議会運営委員会(会期(11月27日～12月14日)、予定議案(議案第91号～110号)及び議事日程、常任委員会付託案、意見書。追加議案111号あり。専決処分3議案承認

◎第4回一般会計補正予算2500万円(県費・衆議院選挙費)

◎伊豆市監査委員、三田忠男氏。

◎友好都市提携を平塚市と結ぶ。

第一委員会付託、議案93号～意見書

案、陳情の13項目。第二委員会付託、議案93号～109号の7項目を審議。議案については、議会だよりを参照して下さい。

すべての議案は可決されました。

質疑が多く反対討論等があった議案は第93号で、第5回伊豆市一般会計補正予算(補正予算3億1200万円増額)の中の、観光振興事業伊豆トレイルランニングレースの安全性について。観光施設整備事業土地購入費(天城ふるさとづくり事業)。第97号で、下水道事業会計補正予算の固定資産財源調査業務が職員では出来ないのか? 第107号で、学校給食調理場条例の一部改正についての修善寺南小学校調理場を廃止する件。第108号で、公の施設の指定管理者の指定について(天城ふるさと広場の現在の管理者(株)来富から伊豆市体育協会に変更する理由。第109号で、公の施設の指定管理者の指定について(修善寺体育館・修善寺グラウンド)など。併せて、体育協会の管理について、体育協会の実績、管理能力などが討論されました。更に詳しく知りたい方は伊豆市ホームページの市政↓議会↓議会中継をご覧ください。

### 市長行政報告

一、第36回全国育樹祭についての報告

二、平塚市との友好都市協定について

三、コミュニティFM「FM・IS」について

四、県道223号線について

五、汚泥再生処理施設の建設について

六、中伊豆荘跡地の売却について

コミュニティFMは9月議会で承認され、社長は(株)ワーキング・ヘッズ・アドバンス代表取締役 桜田賢介氏に内定。来年4月の開局を目指す。

汚泥再生処理施設建設はクボタ環境サービス(株)に決定。来年6月頃に着工し、平成27年3月の完成を目指す。

中伊豆荘跡地売却を公募したところ、(株)ミロクリゾートの一件の応募があり、年度内に売却したい方針。

小長谷順二の一般質問

一、海の県道223（ふじさん）号認定の観光事業・港湾整備について  
二、観光・商工業・農林水産業の連携発展について

三、土肥地区の地震、津波対策について

菊地豊市長の答弁

一、最盛期に伊豆半島は年間9千万人の観光交流人口があったのに対し直近のデータでは3千万人を切っており、大変深刻な状況です。

伊豆縦貫道の工事の進捗、世界ジオパークに向けての伊豆半島が一丸となつての行動、西伊豆地区と静岡市、県の協力を得て、駿河湾フェリーの利用促進に努める。このチャンスを活かし、平成21年に土肥港みなどまちづくり構想が作成してあるのでこれに基づきしっかりと取り組みたい。  
二、狩野川流域のアグリツーリズム（農村観光）にも積極的に取り組むことが重要。観光業を宿泊業ではなく、総合産業として一人でも多くの雇用を確保し所得につなげていきたいので市としても全力で取り組み、指示をしていきたい。

三、東日本大震災以降はハード、ソフト両面での対策が必要。土肥こども園の避難タワー、土肥小学校の裏山へ避難する橋、土肥中、土肥高は屋上へ逃げることで子供達の避難の第一段は出来たので、これからは低地に住んでいる人々の初動の安全確保に努める。海岸に10メートル以上の防潮堤は不可能に近いと思うので、ホテルの一階部分が隠れるくらいの高さの防潮堤で、その高さを想定した避難訓練を行なっていきたい。地域の訓練を通して、市でなければ出来ないハード面、ソフト面をカバーしていきたい。

市長の答弁に対する再質問

一、「港整備が進まず遅れていると、駿河湾フェリーが、他の市町に行ってしまう事もあるのではないか？」また、「ホームページの、駿河湾フェリーの助成制度の表示がわかりにくい」との質問に対し、より使いやすいように、ホームページを抜本的に見直していく。それを踏まえたうえで、県、静岡市、そして沼津市の協力も得て、駿河湾フェリーの存続に取り組みきたい。廃止になったら伊豆半島にとって大打撃になるので、地元土肥の住民も積極的に利用し

ていただきたい。県の中部、西部そして中京圏、関西圏も新たに組み込まれた。富士山静岡空港を利用したインバウンド(外国人旅行者の誘致)は、伊豆市がやります。駿河湾フェリーを使った観光プロモーションをしっかりとやっていきたい。「観光立市宣言はしませんか？」に対し、すでに市民の皆様はどのように考えているので、今はあえて宣言はしない。伊豆市の入湯税は全国16番で非常に大きな収収です。

二、「観光事業費を増やしませんか？」

の質問に対して、現在の市内の旅館は、土日が満室で平日はあいているので、固定資産税の納付や従業員の確保も難しい。行政は平日やオフシーズンの誘客に努めるので、観光協会や観光事業者にはイベントやおもてなしなどを積極的にやっていたきたい。予算を増やすというよりも、市との役割分担をして、誘客に努める事から始めていきたい。

三、「家具の固定について、商工会建設部会で以前事業を行っていたが、引き続き、やりませんか？」の質問に対して、事業予算が終わってれば、他の何かの形で、行ないたい考えがある。

「避難路・避難場所整備について？」は、地域住民から訓練等で得た要望でしっかりとやっていきたい。住民ができる事は皆さまで、市でなければできない事は市でしっかりとやっていきます。

「土肥、小土肥、八木沢、小下田それぞれの地域で防災マニュアル等作る予定はありますか？」に対しては、防災マップについて現在検討中なので、早く完成させたい。そしてマップの普及、訓練の支援をしっかりとやっていきたい。以上が11月29日におこなわれた一般質問と答弁の詳細です。

★定例会や一般質問などの議会で中継はホームページで傍聴することができます。

小長谷順二市政報告会開催

平成25年1月17日(木)

午後7時より

伊豆市役所土肥支所

4階会議室